

タイトル：皆さんのおかげで達成した「ママ、ぼくと一緒に旅しよう♪ぼくの誕生日から始まる47都道府県めぐり」

1 エピソードの要約

2022年5月16日から9月1日の109日間をかけて47都道府県めぐりに挑戦しました。各都道府県の図書館に私が出版した絵本を寄贈しつつ、各地で小さなお話し会を開催することが目標でした。

各県に知り合いがいるわけでもない私は、全国の繋がった方たちのおかげで無事めぐることができました。

2 エピソード内容

私には3人の息子がいます。

高校2年生の長男、中学2年生の次男、永遠の3歳の三男です。

永遠の3歳の三男は2018年9月1日に急性脳症で亡くなりました。

三男が亡くなった当初は、

「なぜ私がこんな辛い経験をしないといけないのだろう？」

「なぜ三男なのだろう？」

「あの時風邪を引かせてなければ今頃元気だったかもしれない」

「私のせいで亡くなってしまったのかもしれない」

と自分を責めたり、自問自答を繰り返していました。

そんな中、ふと自分が信じている考え方を思い出しました。

「人はやりたいこと、やらないといけないことを自分で決めて生まれてくる」

今は自分で決めてきたやりたいこと、やらないといけないことをするために生かされていて、自分で決めてきた人生のテーマを全うした時、何かしらの原因で亡くなり、あの世に還るのだと思っています。

私がそうだとしたら、三男も3歳で亡くなると決めて生まれてきたのではないかな。

私も忘れていただけで我が子が亡くなる人生だとわかって生まれてきたのではないかな。

三男とお互いに約束してきたことなのではないかな。

そう思うようになってからは三男の死を納得することができ、気持ちが軽くなりました。

事実は変わらないけれど、それを辛い過去として生きるのか。

辛かったけどその経験を糧にして生きるのか。

事実をどうやって受け止めるかは自分で選択ができると思い、私は前向きに生きることを決めました。

それからは浮き沈みもありますが前向きに生きていました。

しかし、体は正直なようで、うつ病のような症状が始まりました。

朝起きれない、部屋が片付けられない、ご飯が作れない…。

その中で一番恐怖を感じたのが「物忘れが激しくなる」ことでした。

三男の生きていた頃の思い出、入院中の出来事、亡くなった瞬間。

忘れられないし忘れたくないと思っていたのに、忘れていってしまう自分が怖くなりました。

その時、三男が生きた証を残したいという思いで作ったのが絵本でした。

最初は自費出版と考えていたのですが、出版関係の会社経営者が「それは絶対商業出版のほうが良い。これは僕の使命だから」と何ヶ所も出版社をまわってくださり、出版社の方を連れてきてくれました。

その方の応援のおかげで2020年9月に絵本を出版できることになりました。

絵本出版と同時に、私のようにお子さんを亡くされたママさん向けに

「お子さんを亡くしたママのコミュニティ **twinkle-mom**」というコミュニティを作りました。

自分の人生を明るく前向きに生きていく仲間づくりができるコミュニティで、現在は月に1回ずつ、リアルとオンラインで活動をしています。

お子さんを亡くされたママさんたちとお話ししていると、コミュニティを作って良かったと思う反面、本当に必要な方に情報が届いていないという現状を知りました。

そして、わが子が亡くなっても自分の人生を楽しんでも良いんだよ、好きなことに挑戦しても良いんだよということも、もっと伝えたいと思うようになりました。

その時に思いついたのが、わが子を亡くした私が47都道府県をめぐって体験談やコミュニティの話をするのでした。

三男の誕生日だった5月16日から命日の9月1日までの109日をかけて47都道府県をめぐること、各都道府県の図書館に私が出版した絵本を寄贈しつつ、各地で小さなお話し会を開催することを決めました。

47都道府県をめぐろうと決めたものの、全ての県に知人がいなかったのも、親しくしている方たちに各県に知人がいないか、その方をご紹介していただけないか声をかけることから始めました。

すると、人から人へ話が広がり、全国の沢山の方と繋がることが出来ました。

47都道府県中、半分以上は面識のない方が小さなお話し会を主催をしてくれました。

中には実際に小さなお話し会に参加して下さった方が応援したいと言ってくださり、まだ決まっていなかった県の知人ご紹介してくれるという連鎖が始まりました。

こちらがお願いしている立場なのに、全国の皆さんに温かく迎えていただきました。

全国に知り合いがいない私が、本当に達成できるのだろうかと思ったこともありましたが、沢山の方の応援のおかげで無事めぐることが出来ました。

一番近くで応援をしてくれた方が私にこう言ってくれました。

「由美子さんなら出来ると思って最後まで応援しました」

これからも応援されるような人でいられるように精進していきます。

今度は私が沢山の方を応援できる立場になります。

この旅で繋がった方たちの夢や目標を応援をして、恩返しをしていきます。

3メッセージ

私一人の力では実現できない大きな目標を、日本全国の方たちの応援のおかげで達成することが出来ました。

応援の力は、想像もしていなかった大きなことを実現させてくれるエネルギーになることを体感しました。